

そんな妄想で紫村さんを毎日オナネタにして夏休みは終わってた。

なんで枝毛って無限にわくんたる



「おはよう」

休み明けの登校日の朝、紫村さんはいつものようにただるそうに挨拶してくれた。
憧れの紫村さん：夏休みの間、彼女はどんな体験をしたのだろうか。

僕のようなブ男でオタク全快のキモい男子にも挨拶してくれる、優しいエロい体の紫村魅蓮・・・

進学塾の若い指導員と楽しそうに話していたな：あいつとセックスしたりしてないよな・・・

「お、おはようございます...」

僕はいやらしい妄想と生で挿む彼女の艶かしい肉体に半勃起して挨拶をかえした・・・小さく

はあっ
はあっ
ああっ

おはあッ

紫村さんッ
紫村さん！

だめッ
魅蓮って呼んで！
あっ！あっ！ああ！

魅蓮ッ！
みれんっ！
ああ！きもちいいッ！
ああああっ！

生まれのままの姿で回かい合う僕ら。紫村さんの裸体を
見ようとするのをとどまざるように、静かに抱きついてきた。

彼女はなにかは僕を押し倒し、反り立つそれを受け入れる。
挿入されたときのぬるつとした感覚を堪能するまもなく、
彼女の腰がクイクイと前後に動き、艶かしくも濃厚な快感
を与えてくれた。



まじっ

まじっ

まじっ

みれんっ！みれんっ！
あああ！おちい！

あっ！あっ！
アンツ！アンツ！

イクウ！
いくう！

ちくびいじってー！
もつとねなつてー！
つよくう！

だめっ！
中はだめっ！

ああっ！
イキそう！
でる！
中出し
していい？

のませてッ！
おくちに精液だしてッ！

おらッ！顔出せッ！
でるっ！でるっ！！

下品にのめッ！
舌で全部うけとめるッ！
ウツ！ウツ！うううう！！

おべあっ

あへえッ

あっはあ

あこがれていた同級生の少女は
ひと肌むけば大人のオンナだった...

僕が過ごしたあの暗い受験生の
夏休み裏で、柴村さんが変わって
いた寂しさを押し殺すように、僕
は射精の快感に身を任せていた。